volume 149

変わる日本の「暮らし」と「まち」

復興が進む福島の今を学生たちが見て、聞いて、発信

キモチ、あつまるプロジェクト
福島県　大熊町・双葉町・浪江町
2023年●令和5年〜

阿部民子 text by Tamiko Abe
illustration by Shigeyuki Sakata

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から14年。津波被災地域では嵩上げや高台の整備、公営住宅の建設などが進み、現在の復興の焦点は、主に福島県の原子力災害被災地域に移っている。

UR都市機構は、発災直後から災害からの復旧・復興に力を注いできた。福島県大熊町、双葉町、浪江町では、住民が戻れなかった避難指示解除前から復興まちづくりを支援しており、宅地や道路の整備、建物の建設支援といったハード面に加え、まちのにぎわいづくりといったソフト面まで、一体となって支援を続けている。

○学生向けのスタディツアーを開催

少しずつ復興まちづくりが進む大熊町、双葉町、浪江町。しかし、人口は震災前の約1割にとどまったままだ。そこでURは、3町を訪問したり、地域で活動したりする「関係人口」の増加を模索。その一端として2023年からスタートしたのが、「キモチ、あつまるプロジェクト」だ。このプロジェクトは、大学生を中心とした若者に、復興が進むまちの様子を見て、自分たちに何ができるのかを考えてもらい、自ら行動を起こしてもらうスタディツアーだ。

3回目となる今年は8月27〜29日に開催予定。参加者は現地に宿泊し、「東日本大震災・原子力災害伝承館」や「震災遺構 浪江町立請戸小学校」「中間貯蔵施設」などの見学のほか、URが行う復興まちづくり支援地区の現地フィールドワーク、地域で活動するプレーヤーとの交流会やワークショップ、地域イベント「ふたば飲み」に参加。最終日には、現地で得たことを踏まえて「るるぶ特別編集号」の制作を行う。

ツアーに先駆けて6月19日に行われたのが、ライブ配信によるプレイベントだ。イベントでは、「キモチ ここに、福島への想い」と題したパネルトークを開催。JTBパブリッシング企画制作部編集長の大橋圭子氏、千葉県から浪江町に移住したデザイナー、Plan Vie代表取締役の馬場立治氏、南相馬市出身で相双フィルムコミッション代表の根本李安奈氏とUR東北震災復興支援本部の河田成夢が登壇。「新しく何かをやろうとする人が集まって、ダイナミックに動き始めていてすごく面白いまち」（馬場氏）、「オリジナルるるぶを学生さんと作ることで、課題解決のお手伝いをしたい」（大橋氏）、「他の地域では起こりえない取り組みを、最前線で感じてもらえるはず」（根本氏）、「福島に足を運んで、現場の空気感を直に感じてほしい」（河田）など、熱い議論を繰り広げた。

○若者の言葉で福島の今を伝える

プレイベント終了後、UR災害対応支援部の勝谷亜子と、パネルトークに登壇した根本李安奈氏に話を聞いた。

勝谷は、今年4月に現部署に異動。災害復興に携わるのは初めての経験だという。

「東日本大震災当時は小学6年生。九州に住んでいたので、UR入社後の新人研修で福島の3町を訪れて改めて被害の大きさを実感しました。原子力災害被災地域は、一度、人口がゼロになっただけに、今どういう状況なのかを伝え、たくさんの方に関心を持ってもらうことが大事です。今回のツアーでは学生さんの言葉で内容や体験したことを発信していただき、より多くの方々に福島の今を感じていただきたいです」

根本氏は、東京で大学を出て働いた後、コロナ禍で南相馬市に戻り、小高ワーカーズベース（現・OWB）で勤務。その後退職し、フィルムコミッション事業を立ち上げた。

「フィルムコミッションといっても、お金を取らないのが原則。この地域は誤解もされやすいので、地域理解をもって作品を制作してもらうのが狙いです。シナリオハンティングや監督ツアーも行いながら、ロケなどをしてもらうことで、地元の方に楽しんでもらい、地域に誇りをもってもらいたい」と話す。

自らも地域プレーヤーとして活躍する根本氏が「ハイキャリアのプレイヤーたちがたくさん入ってきて、難しい課題に前向きに取り組んでいる。地域創生みたいなことに興味がある人は、チャレンジできてすごく面白いと思うし、ツアーに参加することで自分も関わっていいんだと思ってもらえれば」と語れば、「参加した学生さんたちはツアー後も福島に関心を持ち続け、また福島に遊びに来てくださるなど主体的な動きも起こっています。まちに関心がある方やプレイヤーがどんどん集まって、さらに人を呼び込み、大きな動きにつながればうれしい」と勝谷。この夏、福島で若者たちが何を感じ、伝えるのか。その行く末を見守りたい。

上／「キモチ、あつまるプロジェクト」の活動を配信で広く伝える。
左／2024年に行われた「ふたば飲み」に参加した学生の様子。

街に、ルネッサンス
UR　UR都市機構

［企画制作］新潮社